

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



文部科学省
地(知)の拠点

「新しい年度に向けて」ふくいCOC+事業推進協議会議長 ご挨拶

福井大学長の上田孝典でございます。

このたび、ふくいCOC+事業推進協議会議長を、眞弓光文前福井大学長より引き継ぐこととなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、ふくいCOC+事業は中間評価におきまして、42事業の中で最上位のS評価を受けました。これは、参加大学の前向きな連携、そして県・産業界など協働機関等のご支援があつてのことと伺っております。

特にFスクエアでの、共同講義につきましては、その履修者は年々増加しておりますし、単位互換者も多く、他大学の学生との交流や、他大学の講義の受けられることについて評価も高いと聞いております。また、ふくい地域創生士の認定者は2年間で125名となっており、特色人材育成部会における成果発表会も開催される等活発な活動がなされております。

この事業は、今年度が最後の1年となりますので、このような評価を維持しつつ地方創生の目的を果たすべく、議長として全力を尽くしたいと考えております。つきましては、今まで以上の各大学の積極的な連携・参加や地域のご協力をお願い致しまして就任のご挨拶とさせていただきます。

ふくいCOC+事業推進協議会議長 福井大学長 上田 孝典



平成30年度 COC+共同開講科目と履修結果

平成30年度COC+共同開講科目の履修者数及び単位修得者数は下表の通りとなりました。

	科目数	＜履修者数＞			＜単位修得者数＞		
		履修者数	単位互換による履修者人数(内数)		単位修得者数	単位互換による修得者人数(内数)	
共同開講授業	35科目	1,551名	474名	30.6%	1,327名	362名	27.3%
テレビ授業	4科目	248名	36名	14.5%	230名	34名	14.8%
合計	39科目	1,799名	510名	28.3%	1,557名	396名	25.4%

年度を追うごとに履修人数等が増加しており、学生の間で、Fスクエアでの授業開講や、自学及び他大学における地域の文化・歴史・産業・医療等の幅広い分野について学ぶ魅力ある授業科目が開講されていることが浸透しつつあることの表れかと思えます。今年度もこれまでに無い科目の開講も予定しています。来年3月認定予定の「ふくい地域創生士®」(第3期)を目指し、多くの学生が受講することを期待しています！

4月20日に「外国人留学生と県内企業の合同企業説明会」が開催されます！

対象学生：2020年3月に大学等を卒業予定の外国人留学生のみならず
詳細については、下記URLより開催チラシをご確認下さい。

<https://www.fukuibank.co.jp/seminar/20190420/pdf/seminar.pdf>



※左記、QRコードより開催
チラシをご確認下さい。

3月22日、眼鏡素材研究部会の講演会が開催されました。この中で、「これからの眼鏡、そして福井が眼鏡産業の中心として生きるには！」と題して講演を行いました。この中で、(1)県内大学での就職率は極めて高く、超売り手市場になっていること、(2)地元志向、大企業志向が強い学生が極めて多いこと、(3)インターンシップ参加学生の採用が増加していること、(4)企業合同説明会での対応やOB・OGの有無によって各企業への応募者数が大きく変わることなどについて、学科就職担当としての経験を通して近年の就職活動について説明しました。



懇談会の様子

また、「眼鏡産業の活性化のためには、優れた人材の確保が不可欠である」として、効果的な採用活動の方法を提案しました。その後、渡邊就職支援課長を交えて、これらの課題について出席者との意見交換が行われました。企業イメージや採用条件を急激に向上させることは困難であるが、少しずつでも改善したいという企業の思いが強く感じられました。

(前福井工業大学 地域連携研究推進センター長 羽木秀樹先生より寄稿いただきました。)

アドバイザー・ボード・ミーティングが開催されました！

2月27日、第2回「ふくい地域創生士®」認定証授与式と、第1回「ふくい地域創生アワード」の表彰式終了後、「アドバイザー・ボード・ミーティング」(平成30年度認定者と事業協働機関関係者、県内4年制大学の教職員が参加し、ワークショップ形式で行う意見交換の場)を開催し、6つのグループに分かれて意見交換をしたのち、グループ代表者から発表がなされました。後輩へのメッセージも多く発表されました。

「ふくい地域創生士®」または「ふくい地域創生アワード」を目指したきっかけ、これまで学んだこと
今後、この認定等をどのように生かしていくのか
ふくいCOC+事業への要望 など

福井県が
丸ごと
キャンパス！

「ふくい地域創生アワード」表彰者の発表を聞いたが、自分の活動が表彰され形あるものとして認められることは学生生活の中で非常に良いモチベーションとなると思った。

フィールドワークを通して、他大学の学生との交流や福井の企業を知ることができた。

1・2年生から
県内企業の
深掘りが大切！

「ふくい地域創生士®」になって良い所は、「自分の体験や活動が一つの形にでき、就活の自己PRでもアピールできたこと」、「福井県内企業を知るいい機会となったこと」、「他大学生との交流ができたこと」です。

これまで自分が取り組んだ活動が評価され、さらに認定されることで、他学部や他大学の学生・教員、地域の専門家との出会いから生まれる新しい経験がその後のキャリアに役立ち、自分にとって大きな強みになる、認定・表彰制度だと思った。

授業を通して地元企業を見ることで、再発見があると同時に、地域に興味を持ち地元企業についての研究を、早くから始めると良いと感じた。

価値観が
変わった！

就活でPR！

編集後記

「また」、新しい季節がやってきました。「また」と書いてみて、手が止まりました。先般引退したイチローは「昨日の自分を超えるのは、毎日の少しずつの努力しかない」と述べていました。そのような、決して昨日とは違う「また」を意識し、新元号「令和」に込められた想いを感じながら新しい年度を過ごして行きたいと思っています。(舟木)

